

## 化

## 文

航空機が多数、水中に残されていることを知った。

# # #  
50-60隻の艦船眠る

周囲の美しい風景とは不釣り合いな痛ましい姿に胸を突かれた。カメラマンとして水中の美しい景色や珍しい動物などを撮影してきたが、これをきっかけに沈没艦船の撮影を本格的に始めた。

二十五年前ほど前にパラオは戦争遺物の国外への持ち出しや、水中からの引き揚げを禁止したため、周辺の海底には今も五十一六十隻の日本の艦船が眠る。大半

南海の楽園と呼ばれ、日本からも多くの観光客が訪れるミクロネシアのパラオ。かつては日本の委任統治領で、太平洋戦争の激戦地の一つだ。二〇〇二年五月、水中写真コンテストの審査員として同国に招かれた際、ダイビングを愛好するトミー・レメンゲサウ大統領夫妻に誘われて海に潜った。この時、太平洋戦争時の日本の艦船と

が一九四四年三月三十一日の米軍によるパラオ大空襲で沈んだ。沈没地点が特定され、かつ水中撮影が可能な船は現在十七隻。横倒しにいたり、天地逆さまに

なったり、真つ二つに折れ曲がったりしている。大破した傷口から断末魔の叫びが聞こえてくる。旧日本軍に徴用された民間の商船や漁船も多し。撮影した船について

とされる。記録によるとパラオでは百五十機以上の日本の航空機も失われ、海中には少なくとも六機が眠る。零戦もある。それまで米軍機と見られていた機体が、私が撮った写真から零戦であることも分かった。

# # #  
特殊な空気タンクで船の内部に入り込んで撮影することもある。難

潜水器具を使っている。英国海軍が特殊潜水活動のために開発した装置で、不足分の純酸素だけを供給するので長時間連続使用が可能。排気は循環して再利用するので、泡や音も発生しない。こうした特殊な装置を使う職業写真家は日本にはまだ少ないようだ。

それでも沈没船内に入り込むのは、探査専門のダイバーでさえ「自殺行為」と言うほど危険が伴う。船内に滞在できるのは三十分ほど。船内に閉じ込められたり迷ったりしたら命取りになる。

## パラオの海息づく沈没船

◇太平洋戦争の遺物、人間活動の痕跡を水中撮影◇

田中正文



は「戦没船を記録する会」や「日本殉職船員顕彰会」などの記録や資料と突き合わせているが、船名不詳の船もある。

例えば、航路標識「6番ブイ」近くに沈んでいることから「ブイ6レック」と呼ばれる船。船首の突起と左右に張り出した放水設備などから徴用されたカツオ漁船だった

深い「閉鎖循環式」としての作業だ。パラオの沈没船の平均着底水深は三十五メートル。通常の空気タンクでは五分程度しか船内には滞在できない。そこで私は、長く潜れ、

残骸や破壊跡であつても、人間活動の痕跡を残す備品や生活空間は、機械とは違った独特の雰囲気を持つ。寝台や便器、浴槽などは人間の営みの「染み」が残っているように思われる。

# # #  
写真は遺品と同じ  
〇六年六月、千葉県市川市で写真展を開いた時のことだ。来場した六十代半ばぐらいの女性から写真を分けてほしいと頼まれた。原形が分からなくなった船体か工作機械の一部の写真だ。沈没位置などから連合艦隊所属の工作艦「明石」であつたことがわかつている。その女性は父親が「明石」という船で亡くなり、命日は三月三十日だったと母親から教わったという。残骸の一片を取めた写真でさえ、遺族にとつ

ては遺品にも等しいのだと痛感した。パラオには足かけ五年で九回渡航し、総潜水時間は二百六十時間になる。陸上の戦争遺物も含め計二万八千カットを撮影した。二月下旬には記録写真集「パラオ 海底の英霊たち」(並木書房)を刊行する。三月十八日―四月九日には広島県の呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)で写真展を開く。



陸軍徴用船「忠洋丸」の船橋下方通路

は「戦没船を記録する会」や「日本殉職船員顕彰会」などの記録や資料と突き合わせているが、船名不詳の船もある。

例えば、航路標識「6番ブイ」近くに沈んでいることから「ブイ6レック」と呼ばれる船。船首の突起と左右に張り出した放水設備などから徴用されたカツオ漁船だった

深い「閉鎖循環式」としての作業だ。パラオの沈没船の平均着底水深は三十五メートル。通常の空気タンクでは五分程度しか船内には滞在できない。そこで私は、長く潜れ、

残骸や破壊跡であつても、人間活動の痕跡を残す備品や生活空間は、機械とは違った独特の雰囲気を持つ。寝台や便器、浴槽などは人間の営みの「染み」が残っているように思われる。

# # #  
写真は遺品と同じ  
〇六年六月、千葉県市川市で写真展を開いた時のことだ。来場した六十代半ばぐらいの女性から写真を分けてほしいと頼まれた。原形が分からなくなった船体か工作機械の一部の写真だ。沈没位置などから連合艦隊所属の工作艦「明石」であつたことがわかつている。その女性は父親が「明石」という船で亡くなり、命日は三月三十日だったと母親から教わったという。残骸の一片を取めた写真でさえ、遺族にとつ

ては遺品にも等しいのだと痛感した。パラオには足かけ五年で九回渡航し、総潜水時間は二百六十時間になる。陸上の戦争遺物も含め計二万八千カットを撮影した。二月下旬には記録写真集「パラオ 海底の英霊たち」(並木書房)を刊行する。三月十八日―四月九日には広島県の呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)で写真展を開く。